

1、 年頭のあいさつ 会長 今井和男

明けましておめでとうございます。

会員の皆さまには、ご家族おそろいで、輝かしい新春をお迎えの事と、心からお慶び申し上げます。

昨年は会の活動等に対しまして積極的にご協力を頂、厚くお礼を申し上げます。

さて、今年の活動取組み等を振り返ってみますと内外活動等は一層の充実した活動であったと思います。なかでも、定例の草刈、維持管理は勿論であります、次の活動は特筆に当るものです。

。「案山子の製作」(JA 山口宇部農協主催)

。「古代蓮」の植栽地の造成(県宇部健康福祉センター)

。「宇部市民パワー祭、宇部まつり」パネル展示(宇部市主催)

。「ビオトープの講演」(豊田蛍の里)

。「地球温暖化対策ネットでの講演」(市文化会館)

等は『里山ビオトープ二俣瀬』を大いにアピールされたものと思います。

本年は、過去の活動、取組み等を反省しつつ

。保安全管理を中心に見学観察者への対応の充実

。自然観察隊の充実

を中心に「里山ビオトープ二俣瀬」の創造に努めて参りますので、会員の皆様のご支援をお願いし、年頭の挨拶と致します。

2. 活動報告(事務局 記)

一 1月7日(日)平成19年1月第一日曜日初集会の報告を致します。参加者は20名でした。

19年度の特殊活動予定について賛否を議論して戴きました。

1、きらめき財団助成金の説明と請求詳細

2、「里山自然観察隊」は今年も継続して行うが、各会員が昨年以上に参画することを約束しました。

3、椎茸栽培、蕎麦栽培、はいろいろ問題を抽出して協議しましたが継続行いう事になりました。

木炭製造は、製造に昼夜継続や三日間くらい必要なので焼きだしは原田事務局宅の窯が作業性が良いのでこれで行なう、但し材料製作を応援願うことがある。

4、その他、

イ) 二俣瀬券も今年度は発行するが、総会で会費との関連性を決定することになりました。

ロ) 池の中に新しく島の製作要請ありしも、賛成少数にて否決。

ハ) 古代蓮の花を觀賞するための、施肥の問題点を協議

一 1月 7日(日)竹炭取り出し、木炭材料切り出し 西原、松本、金子、吉富、原田マ

一 1月 8日~18日まで浄化用木炭製造

一 1月11日(木)きらめき財団重村氏と助成金協議 田村副会長、原田マ

一 1月14日(日)蕎麦田の荒起こし トラクター原田宗会員

一 1月15日(月)補修用木材調達活動 原田副会長、原田マ

一 1月20日(土)19年第一回作業活動 20名参加〔会員19名地元応援1名〕

1、排水浄化木炭用木炭入れ替え及び補充

2、ハス田、田んぼへ腐葉土運搬散布

3、木材置場を整理し補修材料受け入れ準備

4、草原の川の側壁シガラ補修

5、カブトムシ小屋整理、イモリ池整地等

3、今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

今の所予定はありません。

◎ 行事

— 2月4日（日）（第一日曜日）の活動（助成金相談）

— 2月18日（土）（第三土曜日）の活動 保全活動

◎日程は未定1月末まで

田んぼの厩肥追加施肥と荒起こし

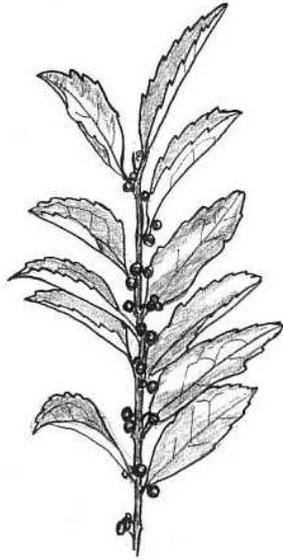
修復材の購入運搬（桧間伐材の運搬、架台用材購入運搬）

4、ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

ヒサカキとシャシャンボ

昭和山遊ロード沿いで一番多い低木といえばヒサカキです。ヒサカキは、姫榊(ヒメサカキ)のことで、サカキに比べて葉がやや小さいことから付いた名前です。玉串といえばサカキですが、サカキがない地方ではこのヒサカキが代わりに用いられてきました。関東ではヒサカキですし、ビオトープの周辺でもサカキを見た記憶はないので、このヒサカキを玉串として用いるのではないのでしょうか。サカキもヒサカキも葉が互生で水平に広がり、玉串として使いやすい枝の形状をしています。また、枝の先端にある芽が鎌形に曲がっているところが共通した特徴です。ツバキの仲間なので、チャノキやサザンカと同じように葉先がわずかにくぼむという特徴も共通しています。違うのは葉のふちがサカキが全縁とって滑らかであるのに対し、ヒサカキには明瞭な鋸歯があるのでギザギザしているところです。ヒサカキは、伐採されてもすぐに芽を出す強い萌芽力を持っているので、里山の木としては典型的な種類といえます。強い萌芽力は、タブノキ、アラカシ、ソヨゴなど里山の樹木に共通した性質です。そのため、昔は薪炭木としての利用が盛んでしたし、刈り込み似も強いので庭木や生け垣としてよく使われています。

ヒサカキに葉や樹肌が一目似ているのがシャシャンボです。昭和山では、ヒサカキが圧倒的に多く、シャシャンボは道沿いにぽつぽつと数本あるだけです。良く見れば、葉の付き方が水平でないところ、鋸歯が明瞭でないこと、芽の形も違うのですが、花も実も付いていない季節に葉だけからこのシャシャンボを見つけるのはかなり至難のわざといえます。しかし先日、実も落ちてしまったこのシャシャンボの木を偶然発見できたのは、早くも伸びだした新芽が鮮やかな赤色で目立っていたからです。シャシャンボがこんな赤い新芽をまだ1月だというのに伸ばしているなんて、今回初めて知りました。瀬戸内海地方の乾燥した地域に多い樹木で、マツ林に普通の種だったそうですが、マツ枯れで常緑広葉樹が多くなった現在では負けて減少しているそうです。シャシャンボは夏の初めに釣鐘状の白い小さい花を付けますが、あまり目立ちません。この木が目立つのは何ととっても秋の終わりです。黒い実をたわわに付けたこの木に出会った人は、この木は何？と必ず聞いてきます。シャシャンボの名前の由来は、ササンボ、つまり小じん坊の意味で、実が丸く小さいことによるといいます。この黒い実、もちろん食べられます。シャシャンボは、ブルーベリーと同じツツジ科スノキ属に属し、ブルーベリーとは近縁種なんです。ブルーベリーほど甘くはありませんがまずまずの味で、ジャムにもできるそうです。まだやったことはないですが、果実酒にも向きそうな感じがします。この日本版ブルーベリー、山の幸としておいに見直してみたいものです。



ヒサカキ (ツバキ科)



シャシャンボ (ツツジ科)

5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

今月はありませんでした。

6. 会よりの連絡事項

行事にも記載しましたが、1) 田んぼの荒耕しを寒の間にしなければいけません。

そのため厩肥の運搬、散布の作業 2) 修復用木材運搬を2月第一日曜日までに実施します。

地域のの会員には軽トラックの応援と人手をお願いする事になりますので宜しくお願いいたします。

7. 編集後記

20日の作業日は大寒とも思えない穏やかな春を思わせるような暖かい日でした。でもビオトープは一面草も枯れ静かなたたずまいを呈しているが、イノシシが勢いよく耕したかのように土を掘り起こしていました。今年一番の作業で東屋付近から平野ゾーンまで気持ちよく整理されました。今から痛んだ所の修復、更に又エコアップに努めていかなければならないと思います。今年もどうぞよろしくお祈いします。

(松本 フデ子 記)